

第4回小牧市水道事業経営懇話会 議事録

1 日時

令和元年11月12日（火）午後2時から午後3時30分まで

2 場所

小牧市役所 本庁舎3階 301会議室

3 出席委員（敬称略）

萩原 聡央 名古屋経済大学 法学部 教授

平山 修久 名古屋大学 減災連携研究センター 准教授

北出 恵子 ひまわり消費研究会 会長

酒井 美代子 小牧市女性の会 会長

佐橋 均 小牧市区長会 副会長（村中区長）

廣野 友巳 小牧商工会議所 常議員（デリカ食品工業株式会社 代表取締役）

4 事務局

牧野 治 上下水道部長

梶田達人 上下水道部次長

伊藤裕介 上下水道経営課長

高木康昌 上下水道業務課長

丹羽昌利 上下水道施設課長

早稲田宏 上下水道施設課長補佐

石田哲也 上下水道経営課経営係長

北 賢司 上下水道経営課水道経理係長

箕浦光高 上下水道経営課経営係主事

5 傍聴者

1名

【事務局 梶田次長】

みなさん、こんにちは。ただいまから第4回小牧市水道事業経営懇話会を開催いたします。本日はお忙しい中、ご出席いただき、ありがとうございます。本日全体の進行役を務めさせていただく、上下水道次長の梶田です。よろしく願いいたします。

第4回の会議につきましては、9月に予定しておりましたが、都合により延期させていただきました。本日の開催となりました。委員の皆様方には御迷惑をおかけし、誠に申し訳ご

ございませんでした。

本会議は公開となっております。傍聴者は1名でございます。

それでは初めに資料の確認をさせていただきます。資料につきましては、事前に郵送させていただいております、第4回の次第、それと資料1の第3回懇話会における意見および意見等に対する考え方、資料2の小牧市水道事業ビジョン・経営戦略（素案 再修正版）でございます。お持ちでない方がお見えになりましたら、事務局の方に用意がありますが、よろしいでしょうか。

ここで資料の差し替えのお願いでございます。本日、机の上にお配りしております、第6章投資財政計画と書かれました、A4の1枚、資料2の32ページ、33ページの差し替えでございます。こちら、33ページの表6-1 更新基準年数の考え方 の文字の一部が、印字されていない状態でありましたので、説明の際にはこちらをご覧くださいますようお願いいたします。

また、次回会議のご案内が入った封筒をお配りしています。こちらにつきましては、後ほど説明させていただきますのでよろしくお願いいたします。また、会議中、記録用として録音および写真撮影をさせていただきますので、ご了解いただきますようお願いいたします。

それでは開会にあたり、上下水道部長の牧野よりご挨拶申し上げます。

【事務局 牧野部長】

改めましてみなさんこんにちは。本日はお忙しい中、第4回の会に出席賜りまして、大変ありがとうございます。まず、司会の方からもありましたように第4回を変更させていただきましたこと、重ねて私の方からもお詫び申し上げます。

さて、本日は前回の会議でもお知らせさせていただきました水道事業ビジョンの素案につきまして、前回からの修正点などについて説明をさせていただく予定でございます。次に第6章 経営戦略の部分ですが、今後の本市水道事業の収支計画であります経営戦略素案を示したいと思っておりますので、それについてご検討いただきたいと思っております。

最後になりますが、委員の皆様方におかれましては、前回と同様に様々な視点から活発なご議論をお願いいたしまして、簡単ではございますが、私からの挨拶とさせていただきます。本日もよろしくお願いいたします。

【事務局 梶田次長】

ここで第3回の会議録の公開についてご報告させていただきます。第3回の会議録につきましては、委員の皆様にご確認いただき、修正等を加えた後、市のホームページで公開しております。それでは、以降の進行につきましては、萩原座長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

【萩原座長】

改めましてこんにちは。先ほども事務局からも述べられた通り、繰り返しになりますけれども、本日は小牧市水道事業ビジョンの素案と、あと経営戦略について検討してまいります。皆様方におかれましては、忌憚のないご意見を頂戴しまして実りのある会にしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは以降着席して進行してまいります。

次第の 2 の前回の意見及び意見等に関する考え方について、事務局からの説明をお願いいたします。

【事務局 伊藤課長】

(前回の意見及び意見等に関する考え方について説明)

【萩原座長】

事務局の説明が終わりました。ただ今の説明につきましてご意見ご質問等ございましたらご発言いただければと思いますが、いかがでしょうか。

【平山委員】

大変よく検討されていて、また各委員の意見を十分反映した修正になっていると感じられます。一点気になったのが、25 ページの下の、今回で行くと 3 番目のところになるんですが、利用者と協働のところに危機管理体制の構築と書いてあるんですが、協働による危機管理体制の構築といっても、やっぱり危機管理体制は上下水道部でしっかりと作っていかなくてはならないので、ここは情報共有と利用者市民と協働による、もう少し大きな水道事業の構築というか再構築とか、ちょっと危機管理体制の構築というのは、ここはおかしいと思っておりますので、ご検討いただいた方がいいのかと思います。

【事務局 伊藤課長】

市民の協働の中での体制の構築というところについては、表現を修正させていただきたいと思っております。

【萩原座長】

では、今の部分は事務局で修正して、次回に提示してください。そのほかに何かご意見等ございますか。前回出された意見を、今回修正いただいて素案に反映させてもらったということですので、この他に何かもし気づいた点があればお願いします。

【北出委員】

今の説明の中ではありませんけれど、今日の資料の中の 5 ページをちょっと見ていた

だきたいのですが。カビ臭の濃度水質基準が、県や類似平均に対してちょっと小牧市が高いような気がするんですが、これは何か原因とか、それとももちろんたぶんこの数値で大丈夫だと思うんですけども、何か原因はわかるんでしょうか。

【事務局 丹羽課長】

カビ臭というのはケイ藻類、藻であるとかそういったものが原因で臭気が発生するものであります。小牧市の場合は、県の水を買っています。県の水は川から引いている水ですので、そういった異臭がする可能性があります。ただ地下水ですと、そういった可能性が低くなりますので、数値としては非常に低いものになります。小牧の場合、両方足しておりますので、くみ上げた水の比率が高い事業体と比較すると若干高めに出ていると推察されます。数値としては、非常に少ない数値でございますので、特に影響があるものではございません。

【北出委員】

はい。

【萩原座長】

その他は、よろしいでしょうか。それでは次第2に関しては特に意見等もないようですので次に参りたいと思います。次第3 小牧市水道事業ビジョン経営戦略等について、事務局からの説明をお願いいたします。

【事務局 伊藤課長】

(小牧市水道事業ビジョン・経営戦略素案について説明)

【萩原座長】

事務局の説明が終わりました。ただ今の説明につきましてご意見ご質問等ありましたら、ご発言をお願いいたします。

【佐橋委員】

よろしいですか。

内部留保の確保を20億で確保したいということであらうたってみえますけど、現在内部留保って何億ですか。そういう数字をうたった方がいいんじゃないですか。

【事務局 伊藤課長】

現在との、その比較という意味ですね。

【佐橋委員】

説明してもらった後ろの数字ですね。僕らは理解できません。作った方はよくわかっている。僕らも企業におったときは自分で作るので、説明はできるんですけど、聞いた方はたぶんわからない。正直な話ね。

40 ページのグラフなんかは、これ、下の西暦というのは 2047 年という意味ですね。ここまでのシミュレーションって AI でも使われてやってみえるの？お宅たちのフィーリング？

【事務局 伊藤課長】

申し訳ありません。AI までは活用していません。

【佐橋委員】

それから 10 年間の計画ですけれども、同じような数字が 10 年間並んでいるだけでしょ。そこら辺の根拠を。

【事務局 伊藤課長】

給水収益と主な費用である投資につきましては、先ほど説明したように、耐用年数等で平準化、給水人口の減少、その辺で見込んでおります。いるんですが、その他の、経費につきましては平均値など。

【佐橋委員】

39 ページの 4 番の他会計負担金は、ずっと 5250 万ですかね？これ数字並んでいるだけでしょう。これは何？こういう感覚でいかんとやれんという、水道事業に関しての考え方ですか？

【事務局 伊藤課長】

はい、現状値ですね。そちらを延長して。

【佐橋委員】

延長して。これ、言葉は悪いですけど、あまり信憑性はないように思う。どうですか。

【事務局 伊藤課長】

あくまでも試算でございます。

【佐橋委員】

試算でございますね。それは理解しますけども。まあ、10 年間の試算をつくるのは

難しいと思いますけど。はい、まあ以上です。すみません。たまに来て、余計なこと言っ
てすみません。

【萩原座長】

現状じゃなくて、推計ということでたぶんシミュレーションされたということですね。
その他に何かご意見ご質問等ございますか？

【廣野委員】

シミュレーションで1から3を策定して、最終的な計画はどういう風にするかという
基本線というのは決まってるんですか？あくまでもシミュレーション、3通りでしたね。
これでどれにするかという形を、どういう風に結論を。

【事務局 伊藤課長】

どれにするかという計画ではなくて、この10年間で水道事業が成り立つものにしな
さいよというものでございます。10年間の計画期間中のどこかで、水道料金を改定しない
と小牧の水道事業は成り立っていかないよという形の報告になります。

【廣野委員】

そういうことですね。必然的に起債と値上げをすると理想的な数字が出ているわけ
ですから。

【事務局 牧野部長】

こういったシミュレーションの数字を出しますと当然そういう印象が非常につくとい
うことで我々も相当慎重にこの範囲については、記載の方法とか、説明の方法というの
を考えて本日お示ししたわけですが、実際には、50ページの四角の中が現在の状況であ
りまして、経営戦略を作る上で、一定の状況を作らないとわからないもので、はっきり
言えることはこのままではもうだめだと、いうことははっきりしてきまして、実際にど
ういった手を打って、これを改善していくかというのは、ケース②、ケース③というこ
とを想定してやっておりますが、これ以外にも色々考え方というのはそれぞれあると思
いますので、そういうようなことをこれからまた我々は研究調査しながら、しかるべき
時期に、そういうことを踏まえて、どういう形がいいかということをも市民の皆様に提示
しながら今後進めていくという風に思いますので、実際どれぐらいとか、どれがいいと
想定しているわけではございません。以上です。

【廣野委員】

そうなってくるとですね、ここのところずっと、特に水害関係も出て、特に給水車が

少ない状況のなかで、BCP、危機管理についてのいわゆる項目を策定していかないと、先に。同じような、どういうんですかね、いろんなもの対策費用というのをやはり計上が必要になってくるんじゃないかなと思うのですが。

非常に身近な形で、天皇陛下が水について勉強していることもありますので。僕はほんとに、年 1%という数字もですね、もっと増えないかなと。特に埋設管の更新ですね。70 年もつから 70 年もたせようではなくて、前倒しという形で当然計画の中では 10 年のうち、今おっしゃったみたいな 5 年単位で動いていきたいということであれば、10 年の計画をたてた中で 5 年間でどこまで前倒しで作業できるんだということを念頭におくと、私の場合だとこのシミュレーションの中では当然やはり資金源というものの確保というのが最大の要因となってくるのではないかと非常に赤裸々にわかるというか、思いますので、ぜひともその辺のところ、特にほんとに危機管理、これに費やす費用というのを相当予備費として引当てをやっていった方がいいんじゃないかなというのがあるものだから。これは何でもなし状態での 10 年だと思いますから。だからおっしゃりたいにね。

【萩原座長】

その他に何かご意見ご質問等ございますか。平山委員どうですか。

【平山委員】

試算は試算でいいと思います。例えば先ほど佐橋委員が言われたのでいくと、これはあくまで 2019 年度ベースに考えているっていうような情報をきちんと表とかにわかるようにしないと、2016 年から 2018 年の実績で数字は変化してるんだけど、そこから先は 2019 年度の全部数字を使っているんで、そういったところをしっかりと丁寧にしなないといけないのかなと思います。そこで、やはりこのシミュレーション結果のまとめのところでもう一段階考察が必要なのかなとは思ってます。経営が立ち行かなくなる、それはそうなんですけど、例えば市民にとって、どうなるんだ、例えばケース①の場合は、漏水事故件数が増えるのかとか、断水日数が増えるのか、赤水とか水質事故とかは起こりやすくなるんだとか、何かそういうもう少し市民の方が「あ、自分たちにこういう影響があるんだな」といったところの評価まで、できれば踏み込んで、当然、簡単にできるものではないとは思ってますけど。あるいは災害時だったら復旧日数かもしれないけど、何かそういうところか、あるいは経営関係で行くと、耐震化か管路の更新が 1%で考えてるんだけど、例えば 44 ページの下の内部留保の確保等々考えると 1.2%まで行けますよであるとか、ちょっとそういう部分を見せないと、こういう経営的なシミュレーション結果から考えないといけないですよではなくて、もう一步市民に対してどうなんだという部分が、5 章の後に記載が無いと皆さん考えるきっかけにならないのかなと。数字だけ見て大変だね、でもこの数字の中身は訳わからんからああそう、っていう風に終わ

ってしまわないように、皆さんに我が事として考えていただくためには、そういった身近な事例でどうなんだ、あるいは 5 章のそれぞれの目標で安全安心で水質基準不適合とか自己水源とか耐震化率とか管路の更新率とかそういったことをうたっているの、そこをリンクした形で 6 章でもやっぱり議論は進めないといけないと思います。それが大きなところですよ。

細かいところで言いますが、まず 32 ページの経営目標なんですけど、例えば 20 億円を確保します、内部留保なんですけど、可能であればその根拠みたいなものがあつた方が本当はわかりやすい。何か危機等々あつた時にも、これぐらいちゃんと内部留保が無かつたときにはやっていけないんだと。この 20 億ってどっからでてきたの、今 56 億あるってことなんですけど、20 億を死守しないとイケないという根拠については、この資料の中には記載すべきではないかなと思います。32 ページでいくと、ちょっとこれはコメントと思ってください。投資っていう観点から行くと、やはり、ヒトとモノへの、まあモノへの投資は書いてるんですけど、ヒトへの投資をやっぱり書いておかないとイケない。組織ってやっぱり施設だけでは維持できないので、ヒト、で最後には情報システムということもありましたが、そういうヒトとかシステムとか、そこへの投資もきちんと経営目標には入れてるんだというようなことはぜひどこかで示しておいていただいた方がいいかなと思います。後ろの今後の取り組み予定のところ職員を今色々な情報共有の場に参加したりとか等々あるので、結局それって額は小さいかもしれないけど職員への、ヒトへの投資になりますのでぜひそこは経営目標の中に入れておいた方がいいかなという風には思います。これはコメントです。

これからこれは質問です。35 ページなんですけど、2039 年以降、これ単純に平準化したということなのですが、管路の投資額が半分減ってるんですけど、この時も 1%の更新って確保できてるのかどうか。これがあるから途中から内部留保がぐーっと増えていってるように見えるんですけど、この時の管路更新率って何パーセントなのかを少し教えていただきたいというのが 1 点。もう 1 点は重要管路で更新が難しいものをどうしていくのかという、そういったものはないのか、例えば、以前ご説明いただいたと思うのですが、配水池間の連絡管であるとかバックアップの管路がないとこの重要管路は更新できない、あるいはこれ止めてしまうとここに供給できないので、バックアップがないとここ更新できないようであるとか、そういったような観点をいれてるのかどうかといったようなことは少し検討しておいた方がいいかなあという風には思います。あとは、あんまりしゃべりすぎてもあれなので。

料金の値上げについてなんですけど、ほんとに理想を言えば 15%ありきではなくて 5%だったらどうなのか、10%だったらどうなのか、20%だったらどうなのかっていう何パターンか料金の値上げに関しても幅があつた方がほんとはいいのかもしれないです。今回は経営戦略ということで、どういう経営状態なのかを小牧市民にわかっていただく資料なので、その次、ほんとにどういう風に経営を具体的にしていくのかという段階ではそ

ういった様々なケースで、5%でこの程度しかできない、あるいは15%だどこまでできる、じゃあみなさんどういう選択肢を選んだ方がいいんでしょうという、考える、要は選択肢であるとか、考えるような基本的な情報からするとそういったケースがあってもいいのかなと思います。なので、もちろん企業債ありと料金値上げ有り無しという形で今回されてはいるんですけど、今後の検討としてはそういった更なる検討であるとかそういったものも必要になってくるのかなと思います。なので、このままでいくと15%値上げありきみたいな形に見られてしまうかもしれないので、もう1ケースぐらいは計算しておいた方がいいのかなと少し感じました。あと、すごく細かい点なんですけど、40ページ、44ページ、48ページにグラフがあるんですけど、縦軸が全部統一されてない部分があるので、そこは統一した方がいいと思います。1個は140%が一番上で、一個が120%が上とかだと、ちょっとわかりづらいというか、比較としてはやっぱり軸もそろえた方がいいのかなという風には思います。

【萩原座長】

今、平山委員から色々ご意見頂戴しまして、まず佐橋委員と廣野委員との関連性で、このグラフの2017年、18年で19年以降また続く額、グラフというか表ですよ。そもそもこういう書き方そのもの、推計について結構事務局も苦勞されたと思うんですけど、例えば2019年度ベースでと、さきほど委員がおっしゃったように、何らかの表記をして市民がわかりやすいようにしていただきたいという意見ですね。こちらいいですよ、そのような形で修正いただくってこと。あと設定の目標ですよ。この第6章一番最初にある経営目標に関して、例えば20億円以上の確保というけれども、それがどうして小牧市は20億円以上を確保するのか根拠を示してもらおうというのもよろしいですよ。

その他、意見として、5%、10%とか、確かに時間の無い中で事務局もかなりご苦勞されたと思うんですけど、やはりこれ、ビジョンを市民に示すということであれば、当然この5%値上げの場合と10%、15%、そして20%だったら、またいいかもしれません。確かにそのうちの小牧市としては10%、15%をメインに考えていくというのであれば、5%、20%を示した方が市民が納得しやすいかもしれません。その点が一番初めに平山委員がおっしゃった市民目線のまとめですよ。49ページのところでも、やはり市民目線で、例えばケース①ケース②ケース③、こうした場合に我々市民が小牧市民がどうなるのか、市民が考えるというようにきっかけになるような工夫もしていただくと、していただきたい、ということは意見として私もその通りだなという風に思いましたので、その点、今後このまとめの方でしっかり記載していただきたいと思います。その上で、平山委員、質問2点出してくださいましたので、質問第1ですが35ページのところの、この管路の更新費用547.8のところ、ここからそういう風になっている、そのところなぜなのかというところしっかりご説明いただきたいのと、質問2に関しましては重要な配管についてこの観点を入れているかどうかの視点ですよ、この件について質問2点、ご回答

お願いいたします。

【事務局 伊藤課長】

35 ページの特に後半の方ですね、グラフが下がってるところにつきましては、計画期間中は 1%の更新率では計算しておるんですけども、この部分に関しましては 1%以上のものは入っておりません。

【平山委員】

やはり 2039 年以降は管路の更新率は、その前が 1%を確保して 100 万だから 1000 億。半分ってことは 0.6%ぐらいになってしまうってことですよ。それはそれでいいのかってというのは。そもそも更新基準年数を考えた時にはちょうど 2039 年以降に対象になる管路が、例えば 60 年前に埋めた管路が少なかったからこうなってるだけであって、ほんとはここは 1%確保するだけの予算は積んでおいて、後ろの方で内部留保が異様に増えていくってというのは、なんかこれは違うんじゃないのかなという風には思います。

【萩原座長】

これ 1%にすることの弊害、いや 0.6%ぐらいにしておかなければならない理由というのはあるんですか。

【事務局 伊藤課長】

例えば 19 ページに全体の管の更新でかなり山ができておりまして、ちょうど耐用年数がこのあたりになる管が少ないところなんです。仮に、35 ページの計画で 10 年 20 年とうまく更新できてたとすると、この 39 年以降、仮に 1%以上更新しようとするひょっとすると前倒し更新する、ことになるのかなと思われま。

【平山委員】

逆に平準化したことによって、更新基準年数を上回ってしまう管路がどのぐらいあるのかというデータがあった方がいいのかと思います。逆にそれが増えるということはやっぱり漏水事故が多くなったりとか、そういうリスクが高くなるということだと思いますので、一概に 40 年以上とは言えなくて、今回整理されたような、33 ページ、今日配られた更新基準年数をベースにどの程度小牧市にあるのか、それがきちんと減っていったら、或いは、料金値上げ等々、改善をきちんとしなければそれってあんまり減らないんだとかそういったものをしっかりとデータとして見せた方がいいのかなという風には思うんです。やっぱり基準を作ったら、基準を超えないようにやっていかないとはいけませんよね。ちなみに 2020 年以降から 10 年間で超える管はでてきますよね、更新基準年数を。多少なりとも。そんなに大きな割合ではないと思いますけど。そうではない

んですか。

【事務局 伊藤課長】

2019年にかなりきてますので。

【平山委員】

いっぱい更新しないといけないのですがそれを平準化するという事は、先送りして
るので。

【事務局 伊藤課長】

若干ですが、そうなります。

【平山委員】

いくらかは更新基準を超えてしまってる感がでてしまうということですよ。

35 ページでいくと、市民の方から行くと、これでいくと、これ以降って管路の更新は
500 億ぐらいでいいんだっていう風に思ってしまうのかなというのが 1 点あるん
ですが。0.6%の更新でいくと、完全に更新するまでに 200 年近くかかるので、更新基準年
数はどんどん将来増えていきますよね。さらに 100 年後とか。そこはご検討いただいた
方がいいのかなという風には思います。

【事務局 丹羽課長】

もう 1 つご質問がありました、難易度の高い管の更新についてでありますけれども、
先ほど申されました通り、送水管ルートにつきましては、バイパス管の整備を今検討し
ておりまして、その費用がこの中に入っております。もうひとつ、以前に説明しました
ループ管耐震化も整備をしております、重要給水施設の路線の計画についてもその費
用がこの中に入っております。

【萩原座長】

そうした費用をまたこの表から見るようにするには、細かく書かなくて
はいけないということですよ。そうすると。一応入っているということは。その点ど
こかに記載いただくか、あるいは市民の皆様にとってもそれがわかりやすいように何ら
かの工夫していただくかということができる限りでご検討いただければと思いますし、
さきほどその管路の部分ですね、これで 0.6%という形で誤解を受けないようにするた
めにも、まずはこの部分を、今後同じく 1%推移できるならできると、ご検討いただ
くという形で。

【平山委員】

ループ管は5章には記載があるんです。

【事務局 伊藤課長】

少しわかりづらいですけど、29ページの危機管理体制の強化、下の方、こちらの方に先ほどの送水管の整備の方もいれさせていただいております。

【平山委員】

逆に言うところの5章に書いていることも全部入れていますよということをどこかで6章には書いておかないといけないのかもしれないです。先ほど佐橋委員が言われたように、作っている側はもちろん入れて考えているから当たり前という風に思ってもらえるかもしれないですけど。

【萩原座長】

確かに私もこの表見てなんだかわからない。それが正直なところですので、そうした点は市民の皆様によりわかりやすいように記載を心がけていただくということをお願いいたします。あと、平山委員が意見で、ということでおっしゃってましたけど、ヒトに対する投資っていう部分ですね、この点、もし何か今後も事務局の方で検討いただき、その必要があるとするならば、このビジョンの中、3の中に盛り込んでいただければと思います。

その他、何かございますか。その他に特にございませんか。酒井委員、特にございませんか。

【酒井委員】

ほとんど難しくてわからないっていうのが正直なところでございますが、とにかく私みたいにわからない人間が見て理解できるような、市民にこれを公表するのであればそういうことを少し心掛けていただければありがたいと思います。お願いいたします。

【廣野委員】

私もあの、10年間というのは、ほんとに平準で、それこそ誰がやってもこのままいけるということで、たぶん人事異動があってもこのままいかれるんじゃないかと思えますけども、誰がやっても。ただ前も言いましたように、市民目線で、平山委員がおっしゃった、前倒しですね、たとえば耐震を5年間でやるっていったらどれだけお金かかりますよと。そのうち65のうち20だと45使えますよと。でも足りないから値上げしますよと。テンポあげた場合は、これだけのお金を使えますから前倒しで十分できるとか。そういう意味でのシミュレーションをね、リスクヘッジになると思うんですけども、そう

いう部分はやっぱり想定の中でやられると次のステップアップされるところで。ぜひとも市民への啓蒙という形の中で、選択肢をね、市民の人にやっぱり問えるような、そういうような数字がどうしても私も欲しいなと思っていますので、今本当に耐震耐震って、その辺のことが話題になってまして、小牧も対象外ではないと思います。そういう意味では少しでも危機管理については前倒しに小牧市としては取り組んでいきますという、そういう意思を表に出した上での③番ありきかなと。③ありきかなとそういう風に思いますので。決して悪いことではないと思うんです。平準のこの表というのは、私が書いてもこういう表になると思うし。会社で書けって言ったらこういう数字しかでてこないと思いますけれども。これをいかに崩していくかというのが一つの作業になると思いますので、ぜひとも小牧市の水道事業の中では前向きな体制をとってるよということをお示し願いたいという風に思っておりますので、よろしくお願いたします。

【萩原座長】

北出委員、何かございますか。

【北出委員】

非常に人間的な話というのか、20 ページに技術職員の割合のことがちょっと書いてありますね。6割以上が50歳以上でありということが書いてあり、こういうことを書いて市民に対してどういう印象を受けるのかなという、非常にさみしいような怖いようなそういう印象を受けるわけですよ。こういうことを別に書かなくても、市の方針として、いわゆる人件費を削減する為にすごくね、関係してるからという理由があるのかどうなのか知りませんが、これをこんな風を書くことがいいのかなとちょっと思いました。やっぱり有能な職員さんに水道の方の事業に携わっていただきたいなど、若手の方にも。そんなような気がします。

【萩原座長】

こうした意見を踏まえて、一つずつ精査していくと思うんですけれども、共通した意見としてはやはり市民目線というか、市民の立場でということをお願いいたします。細かいかもしれませんが、49 ページのまとめのところで、民間ノウハウの活用と書いてあります。そこで民間ノウハウの活用に関して、私も否定しないんです。できる限り効率的な運用というのは必要だと思うんですけど、サービスの質の向上ってよく民営化の中で言われることなんですが、具体的に水道におけるサービスの質の向上って図られている実例ってあるのかなというところがひとつ気になります。サービスの質の向上ってよくよく自治体の行政経営改革とかでてくるんだけど、本当にサービスの質の向上というところが、私知りたいところが1点と、④のところ、先ほど平山委員は職員研修ということでヒトへの投資ってということをおっしゃっていました。私もそれに全く関係な

いことないなと思っていて、必要最小限の人員ってあるじゃないですか。この書き方として、必要十分ではなくて最小限。例えば私の大学では、教員配置について設置基準ぎりぎりやってる。それが最小限と言えれば最小限なんですけど。すごく大変なんですよね。こうした必要最小限の人員でといったところ、必要十分ではなくて最小限、おそらくそれは最低ラインぎりぎりのラインという発想があるのかもしれませんが、私は水道経営って本当に人の命に係わることだし、市民にとっては必要不可欠な事業でもあるから、そうした点では職員をしっかりと十分に確保しながらやってほしいなと思うところがあるんですけど、そういう点大丈夫なのかなってという質問ですね。

ですから今の二つの点、サービスの質の向上っていうところの具体例と必要最小限の人員で大丈夫ですかっていうところ、小牧市の考え、教えてください。

【事務局 高木課長】

私からサービスの向上ということで少しご説明させていただきたいと思います。

以前から検針部分を民間委託しております。何がサービス向上になったかといいますと、お問い合わせにつきまして、なかなかうまく職員で説明できないということもありまして、時間がかかってしまったということがありましたが、民間委託にしまして、的確にご回答をさせていただくというようなこともできるようになりました。また、お客様サービスになったのが、宅地の中の漏水の件なんですけど、メーターを見ますとメーターが回っていませんので、漏水をしていますと、以前もこれはご連絡させていただいていますが、どこの辺で漏水しているのかということも委託先の業者の方で調べてくれてまして、漏水の修理の期間というのがかなり短くなっているという状況もございます。この先民間委託を進めていく中で、一番大きなサービスになっていくのが、どうしても料金をお支払いになられない方というのがお見えになります。その方につきましても私どもでなるべくお支払いをしていただくような方策をとっているのですが、さらにお支払いにならない方につきましても料金をお支払いいただく方策を進めていきますと、皆様の料金の支払いに対する公平性というのが向上しますので、その辺につきましてもお客様サービスの向上となるのではないかと考えております。

【萩原座長】

ありがとうございます。

【事務局 牧野部長】

人の問題を萩原座長からいただきました。行政として全体の流れの中で、やはり必要最小限で最大の効果をあげていくことが求められますので、それを否定できるものではありません。ただし実際のデータで、先ほど言われましたように、数値的にですね、今後ほんとに大丈夫かなというような、明らかな数字ですので、何もごまかしていく必要

も無い、現実の話をしていますので、変わって若い職員が入ってくるのが事実は事実ですね、抜けて出て入ってこないというわけではありませんので、いわゆる 40 代ぐらいがチームの中に非常に少ないという状況、これ全庁的にありますので、結果的にこのようなデータになるということです。そのような事の中から、確かに私も今改めて必要最小限というのは、ちょっと市の方も後ろ向きすぎるかなとまさしく思っているところなんですけど、なかなかはっきり増やしていくというようなことも、なかなかそういう訳にもいきませんし、それがほんとに市民サービスにつながるかということもありますので、そここのところは全体考えながら、うまくこういった記述の仕方を持ち帰ってまた検討していきたいと思います。

【萩原座長】

ありがとうございます。特にこの会議の中で水道に関する技術の継承っていうのも大事だよという話、職員もね、若い人の採用って積極的に進めていただきたいなという思いもあります。最少の費用で最大の効果みたいな、地方自治法にもしつかり明記されているから仕方ないといえば仕方ないのかもしれませんが、水道事業を継続してやっていけるようなという思いはあります。ありがとうございます。

その他、何かご意見ご質問等ありますでしょうか。よろしいですか。平山委員大丈夫ですか。

【平山委員】

市民の方がわかりやすいように。例えば、私もきちんと理解できてない部分があるんですけど、例えば内部留保が無くなってしまうと、漏水事故が起こっても直せませんよとか。そういうことを言ってもらった方が、ケース①ってやっぱり駄目だよねとか。やはりそう言ってもらわないとわからないですよ。あるいは内部留保が 10 億しかなかったら、年間漏水事故は何件までしか対応できませんとか。それ以上起こると次の年度までほったらかしですよとかというようなことになるんですよ、内部留保が無いということは、突発的なものに対応できないってことですよね。

【事務局 伊藤課長】

はい。

【平山委員】

単に年度の会計を帳尻合わせるための内部留保ではなくて、市民の安全安心を守るためにもやはり必要なんだといったことは是非どこかで言うべきではないかと。

【北出委員】

はい。そういうことはね、今、災害も非常に多いので、災害の時も対応できますよっ

て感じで。

【事務局 牧野部長】

そうですね。そういうお金がないとできないってことですので、ただ一方で借りるという手法がまた無いことがないってことになるんですけどね。

【平山委員】

何かあったら借金しましょうでは、ちょっと困りますよね。

【事務局 牧野部長】

市の方からいただくという手もございます。

【平山委員】

市の財政も厳しいですから。やはりそこは命に係わる水ですから。

【廣野委員】

給水車っていくらするんですか、一台。容量にもよりますが

【事務局 高木課長】

1000万は超えると思います。もちろんその仕様により色々だとは思いますが。

【廣野委員】

今回は、小牧は派遣してないもんね、給水車。だから僕らはやはりそういう普通の目線で見ると、自衛隊があるのでいいとか思いますけど、やはり小牧市の給水車5台ぐらいいもって管理をしていくと、どこかの市長の車、ここの市長の車、公用車よりも多くてもいいんじゃないかって思う。小牧市は持ってますよ、給水車を、5台も。他市とは違いますよ。そういうのがやはり安心感、安心感を与えて欲しい。見えない事なんで、土の下なんでね。水道管と下水しかないんで。あとは浸透させる貯水だけなんで。そういう意味では今日皆さんおっしゃったように、選択肢を2つ3つだして、例題で。その中であなたならどうとりますかというアンケートをとってもね、結構おもしろいんじゃないですか。どういう答え帰ってくるかね。ただ値上げというのが先に出るのではなくて、必要なお金の財源の確保といえ、それがここの負担金になりますという見方をね。そういうのが非常に大切だと、プレミアム商品券とおかしいですけど。一割10%還元しますと、市民税ね。現金で返せといたら一人4~500円でしょ？現金渡しなさい、還元しなさいという。プレミアム商品券買った人が10%享受するということね。ああいうものはいかがなものかという話もね、ありますよね。そういう意味では、まず市民の人

にね、とくにいい時期なんですよ。水害ばかりの話だから、ここのところ。なくてもいいかんけど多すぎてもいかんわけです。その辺の河川改修も踏まえた上で水道というのがいかに大切かというのは皆さんもうテレビなんかで、是非とも。今日はお願いばかりで。

【萩原座長】

色々ご意見いただきましたので、こうした点を 3 の中にまたできる限り盛り込んでいっていただきたいと思います。よろしいでしょうか。その他に特に意見もないようですので、次に参りたいと思います。次第 4、その他について事務局の説明をお願いいたします。

【事務局 伊藤課長】

冒頭にも申し上げましたけれども、お手元の封筒に次回の会議の案内をお配りしております。次回は 12 月 24 日の火曜日、午後 2 時から、会場は本日と同じこちらの 301 会議室を予定しております。年末のお忙しいところ、誠に申し訳ございませんが、ご予定をお願いいたしますようよろしくをお願いいたします。事務局からは以上です。

【萩原座長】

ただ今、事務局からその他事項について説明がありましたけれどもご質問はございますか。よろしいですか。

以上をもちまして本日予定された議事すべて終了いたしました。皆様方には議事進行にご協力感謝申し上げます座長の役を降りたいと思います。ありがとうございました。

【事務局 梶田次長】

本日は大変ありがとうございました。これをもちまして第 4 回水道事業経営懇話会を終了させていただきます。

まだ日の方大変明るいですけれども 11 月になって日没時間も早くなっております。愛知県でも今ヘッドライトを早く点灯しましょう、それからハイビームを基本的につけて走りましょうということで、交通事故の抑制に向けて少しでもできることをしていこうと取り組んでおります。なかなか、私、自転車通勤なんですが、たまに車の方で、ハイビームのつけ忘れはなかなかきついものもあるんですけど、安全運転を心がけてと思っています。お帰りの際は皆様お気をつけてお帰り頂きますようお願いいたします。

本日はありがとうございました。